

小さな成長を見逃さないように

私が活動しているオリンピックスタジアムは、1964年に建設された歴史ある公共施設です。SEA GAMESでの入賞を目指すナショナルチームの選手だけでなく、仕事終わりにひと汗かきにランニングに来る大人、日陰に座り込んで談笑する学生等、誰もが自由に出入りし利用できるスタジアムです。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、度々、施設が利用禁止になったり、私も練習後によく利用していた屋台群が撤収したりしていますが、依然として活気のあるプノンペンの人々の交流の場です。

私はカンボジア柔道連盟の指導員として、スタジアム内の道場でカンボジア代表選手を対象に指導を行っています。カンボジアには学校教育で体育が後回しにされてきた歴史があると先輩隊員から聞いていたので、柔道の技や礼法だ



ダラ先生、鈴木、カウンターパートのヴィボル先生

けでなく、基本的な体の使い方・動かし方まで丁寧に指導するように気を付けています。些細なことかもしれませんが、こうした小さなことの積み重ねが後の成長の土台となると信じています。

一月末に開催された全国大会では、初心者ながら私の指導についてきてくれたある練習生が、その大会の優勝選手を足払(あしばらい)で投げました。勝つことはできなかったものの、短期間でもしっかりと成長した姿を見せてくれたことに感激しました。今後も共に修行する中で、練習生の小さな成長を見逃さないよう気を付け、彼らが柔道の楽しさや面白さをより深く味わえるよう指導していきます。



指導風景

鈴木 拓馬 SUZUKI Takuma

東京都出身。7歳から柔道の修業を始める。大学卒業後に大阪の町道場でたくさんの外国人と共に修行をしたことをきっかけとし、JICA海外協力隊への参加を決意。カンボジアはプノンペンで柔道隊員として活動中。趣味はウクレレ。